

1 組織

- (1) 都立荻窪高等学校（三部制） 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 内部委員の構成
校長、副校長2名、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、主幹教諭(総合支援部担当)、主幹教諭（進路指導担当） 計8名
- (3) 協議委員の構成
裕 寛（杉並区立桃井第二小学校長）、佐々木 進一（杉並区立松溪中学校長）、木内 剛（成蹊大学名誉教授）、片山雅美（杉並区子ども家庭部児童青少年課）、平山 恵（警視庁荻窪警察署生活安全課少年係長）、水野 珠実（荻窪中央町会副会長）、長瀬久子（荻窪東町会会長）、植原英雄（旧荻窪高校全日制同窓会会長 計8名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和5年6月23日（金）16：10から 内部委員8名 外部委員8名
①学校長挨拶、②自己紹介、③本校の共有課題及び状況説明（教務部・生活指導部・総合支援部・進路指導部、④地域交流の報告（保育園との交流教育、子ども食堂との連携）、⑤防災教育推進委員会について（避難訓練、防災教育講話、桃井第二小学校震災救援所運営連絡会についての報告）、⑥意見交換。
第2回 令和5年11月17日（金）16：10から 内部委員8名 協議委員6名
①学校長挨拶、②本校の近況説明（教務部・生活指導部・総合支援部・進路指導部）、③防災教育推進委員会について（避難訓練、防災教育講話、桃井第二小学校震災救援所運営連絡会についての報告）
④学校評価アンケートについて（アンケート内容について、地域向けアンケートの配布について）、⑤校則について、⑥意見交換
第3回 令和5年2月2日（金曜日）16：15～内部委員8名、協議委員7名
①学校長挨拶、②本校の近況説明（これまでの教育活動に関する最終報告）、③学校評価アンケート集計結果の報告④協議委員からの次年度に向けた提言・意見、協議、

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校（教員）の実践」と「生徒の評価」「保護者の評価」「地域の評価」の観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
アンケートは令和5年12月から令和6年1月にかけて実施した。

全校生徒	対象：542人	回収：212人	回収率：39.1%
保護者全員	対象：542人	回収：51人	回収率：9.4%
地域・住民	対象：30人	回収：15人	回収率：50.0%
教職員	対象：67人	回収：51人	回収率：76.1%

(3) 主な評価項目

昨年度、アンケート内容を刷新したが今回も授業項目について改定を行った。その他の項目も分掌の意見を取り入れるなど、校務への評価の総体としての学教評価アンケートを目指す形となった。荻窪高校は、ここ5年ほどの間に急激に変貌した。特に「誰も置き去りにしない」をスローガンとしたここ3年間は、総合支援部の創設と相まって教職員の動きを大きく変える原動力となった。日本語授業の導入、通級の設置、不登校生徒への対応としての別所事業など、新しい局面が試行から制度を伴った実行へと進み始めている。またコンピュータの一人一台端末の導入も2年目に入り大きな変化を授業にもたらしている。そこでよりアンケートの質問項目をより明瞭にし、学校の施策への評価となるように工夫した。生徒版アンケートの6項目について簡単な説明を付す。

【授業】教員が試みている授業改善、生徒と向き合う姿勢などを問う質問項目である。

【生活指導】規律指導と防災、豊かな学校生活を観点とした質問項目である。

【支援活動】本校の特徴をなす支援活動について生徒の実感を問う質問項目である。

【進路指導】 自立をするための進路決定を観点とした質問項目である。

【特別活動】 特別活動における自己の拡張について部活動や学校行事を通して質問している。

【コミュニケーション・スキル】 学校生活と生徒のコミュニケーション・スキルについての質問である。

教員版アンケート、保護者アンケートは、上記生徒版アンケートとほぼ同じ内容を質問し、保護者版では、子どもとのコミュニケーション、教員とのコミュニケーションを追加している。また教員版では、保護者とのコミュニケーションの他、教員個人の取り組みについての質問項目を設けている。

(4) 主たる評価結果の概要及び考察

概要：授業、生活指導、支援活動、進路指導、特別活動、コミュニケーション・スキルの6つの分野でアンケートを行っているが、多くの部分で学校経営計画に沿って、生徒と教員の気持ちと同じ方向を向き始めていると言えそうである。学習面では教員の思いがあと一歩生徒に伝わらないが、生徒はかなりの部分を受けてとめている。生活指導面では、防災教育や行事の改革は生徒・教員の評価を得ている。生徒への頭髪を含めた規律指導の説明が大きな焦点である。頭髪指導を含めた規律指導の不断の見直しと説明への努力が必要である。また、「他者への敬意とマナーを守った生活」を生徒に今まで以上に訴え続けていく必要がある。支援活動では、悩み相談の雰囲気作り・体勢作りではほぼ成功したと言えそうである。今後は荻窪カフェの内容精選による居場所作りが焦点となるだろう。進路指導では「卒業後の自立」を目指した進路指導は一定の評価を得て定着しつつある。今後は「総合的な探究の時間」の使い方とデジタル媒体による進路情報の共有が課題となりそうである。

コミュニケーション・スキルでは昨年に引き続き「他者の人権に配慮するスキル、犯罪に巻き込まれないスキル、個人情報保護するスキル」についての乖離が解消されていない。重点的な施策が望まれる分野である。

【授業】

- ① 「小中学校での学習内容を再確認したり、独自のプリントやスライド教材を用意したりするなど、教科書の内容が深く着実に身につくように創意工夫している授業が多い。」という内容の質問に対して74.9%の生徒が肯定的な回答をしている。

教員アンケートでは「私は、小中学校での学習内容を再確認したり、独自のプリントやスライド教材を用意したりするなど、教科書の内容が深く着実に身につくように授業の創意工夫をしている。」という聞き方をしており、95.8%の教員が肯定的な回答をしている。教員の創意工夫を生徒も実感として感じていると言えそうである。

保護者アンケートでは「小中学校での学習内容を再確認したり、独自のプリントやスライド教材を用意したりするなど、教科書の内容が深く着実に身につくように創意工夫している授業が多いと感じている。」という内容の質問に対して75%の保護者が肯定的な回答をしている。

- ② 「興味・関心、自信や疑問を引き出してくれるため、さらに発展的に学習を進めたい授業が多い。」という内容の質問に対して62.1%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「私は、興味・関心、自信や疑問を引き出すことで、さらに発展的に学習を進めたい授業に取り組んでいる。」という聞き方をしており、97.9%の教員が肯定的な回答をしている。生徒の肯定的な回答の割合と比較すると教員の思いがまだ生徒に十分に理解されていないと言えそうである。次の学びに誘うための工夫がもう一工夫必要だと言えるだろう。

保護者アンケートでは「子どもが、興味・関心、自信や疑問を引き出してもらえて、発展的な学習を進めている授業が多いようだ。」という内容の質問に対して74.2%の保護者が肯定的な回答をしている。

- ③ 「本校に入学してから、勉強の楽しさや予習・復習の大切さを実感し、学習に取り組む姿勢が向上した。」という内容の質問に対して63.59%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「生徒たちは、本校に入学してから、勉強の楽しさや予習・復習の大切さを実感し、学習に取り組む姿勢が向上しつつある。」という聞き方をしており、64.6%の教員が肯定的な回答をしている。これは生徒の回答の割合と比較しても教員も生徒も同じような実感を得ていると言えそうである。

保護者アンケートでは「本校に入学してから、勉強の楽しさや予習・復習の大切さを実感したらしく、学習に取り組む姿勢が向上したようだ。」という内容の質問に対して62.5%の保護者が肯定的な回答をしている。

- ④ 「手軽に使えるようになったパソコンやスマホが、効果的な学習活動を促すよう授業で活用されている。」という内容の質問に対して60.3%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「スマートスクールプロジェクトによってパソコンやスマホが手軽に使えるようになったが、それらは効果的な学習活動を促すことに役立つものとなっている。」という聞き方をしており、66%の教員が肯定的な回答をしている。これも生徒と教員が同じようなことを実感として感じていると言えそうである。

保護者アンケートでは「パソコンやスマホが手軽に使えるようになって、授業で活用されているようだ。」という内容の質問に対して 84.4%の保護者が肯定的な回答をしている。

- ⑤ 「パソコンがいろいろな連絡に使用されているため、大事な情報を早く受け取れることが多い。」という内容の質問に対して 60.7%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「パソコンをいろいろな連絡に使用しているため、大事な情報を生徒たちに早く着実に伝達できていると思う。」という聞き方をしており、68.8%の教員が肯定的な回答をしている。この質問には生徒と教員の回答割合に差がみられるが、これはコンピュータ環境の差によるものと考えられる。教員は TAMS 端末が勤務中は起動状態にあるのに対し、生徒は自分のコンピュータを常に起動しているわけではないからである。生徒が主として使用しているスマートフォンとの連動が進めば、情報伝達の速度と確実性は向上すると考えられる。保護者アンケートでは「パソコンやスマホがいろいろな連絡に使用されているため、大事な情報を早く受け取れることが多い。」という内容の質問に対して 75%の保護者が肯定的な回答をしている。
- ⑥ 「本校の学習活動でパソコンやスマホを使用したことで、それらが自分の学習や将来に役立つ大切なものだと感じるようになった。」という内容の質問に対して 69.1%の生徒が肯定的な回答をしている。なお、この項目は教員アンケート、保護者アンケートにはない。

【生活指導】

「本校は、挨拶・頭髪・遅刻などの指導にあたって、規律を守る大切さを理解・納得がいくように説明してくれている。」という内容の質問に対して 54.3%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「私は、挨拶・頭髪・遅刻などの指導にあたって、規律を守る大切さを理解・納得がいくように説明している。」という聞き方をしており、77.6%の教員が肯定的な回答をしている。保護者アンケートでは「先生方は、挨拶・頭髪・遅刻などの指導にあたって、規律を守る大切さを理解・納得がいくよう説明しているようだ。」という内容の質問に対して 67.7%の保護者が肯定的な回答をしている。

- ① 「本校は、セーフティ教室その他の防災教育をいろいろ行うことで、生徒の安全に力を入れている。」という内容の質問に対して 79.7%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「本校は、セーフティ教室その他の防災教育をいろいろ行うことで、生徒の安全に力を入れている。」という聞き方をしており、85.7%の教員が肯定的な回答をしている。生徒の肯定的な割合をみても本校の防災教育を生徒も十分に受け止めていると言えそうである。保護者アンケートでは「学校は、セーフティ教室その他の防災教育を推進し、生徒の安全に力を入れている。」という内容の質問に対して 93.8%の保護者が肯定的な回答をしている。
- ② 「学校は芸術鑑賞教室、文化祭など工夫した行事を組んでいて、学校生活に幅広い魅力を作り出している。」という内容の質問に対して 77.8%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「学校は芸術鑑賞教室や文化祭などの工夫した行事を組んでいて、学校生活に幅広い魅力を作り出している。」という聞き方をしており、89.6%の教員が肯定的な回答をしている。本校では 12 月に芸術鑑賞教室として劇団四季の「アラジン」を鑑賞、また 1 月に「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」として「さらば青春の光」を招いてモルックを一緒に行うというイベントを行った。生徒の肯定的な割合と乖離があるが、芸術鑑賞教室については生活指導部がアンケートを採っている。保護者アンケートでは「学校は芸術鑑賞教室 文化祭などの工夫した行事を組んで、学校生活に幅広い魅力を作り出している。」という内容の質問に対して 96.9%の保護者が肯定的な回答をしている。
- ③ 「本校は、生徒の多くが通学時でも校内生活でも他者に敬意を払いマナーを守っている。」という内容の質問に対して 56.9%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「本校の生徒の多くは、通学時でも校内生活でも他者に敬意を払いマナーを守って生活している。」という聞き方をしており、36.7%の教員が肯定的な回答をしている。生徒の肯定的な回答割合も半分程度、また教員の肯定的な回答割合も低く、改善への検討が必要である。保護者アンケートでは「本校は、生徒の多くが通学時でも校内生活でも他者に敬意を払いマナーを守っていると思う。」という内容の質問に対して 77.4%の保護者が肯定的な回答をしている。

【支援活動】

- ① 「本校は、生徒が自分や友人関係の悩みについて、気軽に相談して支援を受けられる雰囲気がある。」という内容の質問に対して 76.9%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「本校は、生徒が自分や友人関係の悩みについて学校に気軽に相談して支援を受けられる態勢をつくっている。」という聞き方をしており、98%の教員が肯定的な回答をしている。この質問項目の「雰囲気」は教員からみれば教員が作り出している「体勢」である。教員は相談の場面を自分なりに創出しており、生徒をいかにその場面で相談に載せていくかというカウンセリング技術のような訓練の必要性として読むことができる項目である。保護者アンケートでは「本校は、自分や友人関係の悩みについて学校に気軽に相談して支援を受けられる雰囲気がある。」という内容の質問に対して 87.1%の保護者が肯定的な回答をしている。

- ② 「本校は、生徒が家庭内での悩みについて、気軽に相談して支援を受けられる雰囲気がある。」という内容の質問に対して74.1%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「本校は、生徒が家庭内の悩みについて学校に気軽に相談して支援を受けられる雰囲気をつくっている。」という聞き方をしており、95.6%の教員が肯定的な回答をしている。この項目も生徒の肯定的割合と教員の肯定的割合に乖離があるが、前項目同様にウンセリング技術のような訓練の必要性として読むことができる項目である。保護者アンケートでは「本校は、家庭内の悩みについて生徒が学校に気軽に相談して支援を受けられる雰囲気がある。」という内容の質問に対して80.7%の保護者が肯定的な回答をしている。
- ③ 「本校は生徒に、スクールカウンセラー (SC) やユースソーシャルワーカー (YSW) がどんな支援をしてくれるか理解させ、必要なときに役立てるよう促している。」という内容の質問に対して65.6%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「本校は、生徒が暮らしや健康について、気軽に相談して支援を受けられる雰囲気がつくれている。」という聞き方をしており、98%の教員が肯定的な回答をしている。保護者アンケートでは「本校は、生徒に、スクールカウンセラー (SC) やユースソーシャルワーカー (YSW) がどんな支援をしてくれるか理解させ、必要なときに役立てるよう促している。」という内容の質問に対して77.4%の保護者が肯定的な回答をしている。
- ④ 「本校の荻窪カフェは、学校生活に新しい魅力を作り出している。」という内容の質問に対して57.1%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「本校の荻窪カフェは、学校生活に新しい魅力を作り出している。」という聞き方をしており、34.7%の教員が肯定的な回答をしている。荻窪カフェには ユースソーシャルワーカー (YSW) が常駐するなどしているが、「居場所」としては、不登校対応としての別所事業 (本校ではアジュールと呼称) や保健室の相談機能などと重複する面が見られ、今後更に内容精選と差別化を図る必要があるようである。保護者アンケートでは「本校の荻窪カフェは、学校生活に新しい魅力を作り出している。」という内容の質問に対して67.7%の保護者が肯定的な回答をしている。

【進路指導】

- ① 「本校の進路指導は、外部講師の講話などを活用し、卒業後の自立を目指した進路指導が、充実していて良いと感じる。」という内容の質問に対して71.6%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「本校の進路指導は、外部講師の講話などを活用し、卒業後の自立を目指した進路指導が、充実していて良いと感じる。」という聞き方をしており、77.6%の教員が肯定的な回答をしている。保護者アンケートでは「本校の進路指導は、外部講師の講話などを活用し、卒業後の自立を目指した進路指導が、充実していて良いと感じる。」という内容の質問に対して77.4%の保護者が肯定的な回答をしている。
- ② 「本校の進路指導では、生徒ひとりひとりの進路について、卒業後の自立を目指した親身な指導を行っている。」という内容の質問に対して73.9%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「本校の進路指導では、生徒ひとりひとりの進路について、卒業後の自立を目指した親身な指導を行っている。」という聞き方をしており、83.7%の教員が肯定的な回答をしている。保護者アンケートでは「本校の進路指導では、生徒ひとりひとりの進路について、卒業後の自立を目指した親身な指導を行っている。」という内容の質問に対して74.2%の保護者が肯定的な回答をしている。
- ③ 「本校の総合的な探究の時間は進路学習に役立っている。」という内容の質問に対して67.9%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「本校の総合的な探究の時間は生徒の進路学習に役立っている。」という聞き方をしており、55.1%の教員が肯定的な回答をしている。保護者アンケートでは「本校の総合的な探究の時間は子どもの進路学習に役立っている。」という内容の質問に対して63.3%の保護者が肯定的な回答をしている。
- ④ 「本校が掲示やt e a m s等で知らせてくれる進路情報は、自分の適切な進路選択に役立っている。」という内容の質問に対して62.7%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「本校が掲示やt e a m s等で知らせてくれる進路情報は、生徒の適切な進路選択に役立っている。」という聞き方をしており、67.4%の教員が肯定的な回答をしている。保護者アンケートでは「本校が掲示やt e a m s等で知らせてくれる進路情報は、子どもの適切な進路選択に役立っている。」という内容の質問に対して74.2%の保護者が肯定的な回答をしている。

【特別活動】

- ① 「今年度は校歌を歌えるようになる指導を実施していますが、入学前と比べて、あなたは荻窪高校が好きになった。」という内容の質問に対して58.8%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「今年度は校歌を歌えるようになる指導を実施しています。一体感を高めるうえで効果がある。」という聞き方をしており、59.2%の教員が肯定的な回答をしている。
- ② 「あなたは現在部活動に所属していますか。」という内容の質問に対して「所属している (207名回答中 53

名)、「所属していない (207名回答中 154名)」の回答があった。

「所属している」と回答した生徒の内「部活動によって技量の向上ができて満足している」と回答した生徒は「4: 23名、3: 17名、2: 8名、1: 5名」、「部活動によって同好の生徒との親交が深められて満足している」と回答した生徒は「4: 27名、3: 14名、2: 6名、1: 6名」であった。

教員アンケートでは「本校の部活動は、生徒が技量の向上・同好の仲間との親交などで充実感・満足感が得られるよう配慮されている。」という聞き方をしており、67.4%の教員が肯定的な回答をしている。保護者アンケートでは「本校の部活動は、生徒が技量の向上・同好の仲間との親交などで充実感・満足感が得られるよう配慮されている。」という内容の質問に対して 73.3%の保護者が肯定的な回答をしている。

「所属していない」と回答した生徒の内「部活動をしない時間を、補習、個人的な技量向上、趣味に有効に使っている」と回答した生徒は「4: 68名、3: 49名、2: 19名、1: 15名」、「部活動をしない時間を、学外での交流に有効に使っている」と回答した生徒は「4: 41名、3: 52名、2: 34名、1: 24名」であった。

教員アンケートでは「本校では、HR・生徒会活動・生徒同士の交流などにおいて、生徒が満足できるような計画的・組織的指導がなされている。」という聞き方をしており、55.1%の教員が肯定的な回答をしている。保護者アンケートでは「本校の学校行事は、みんなで力をあわせたり折り合いをつけたりして、大切なものを作り上げていく資質の向上に役だっているように感じる。」という内容の質問に対して 77.4%の保護者が肯定的な回答をしている。

【コミュニケーション・スキル】

- ① 「本校は、完全選択制ではなく、HR が中心にあるので、クラスメート同士の交流場面が多いことで、コミュニケーション・スキルの獲得に役立っている。」という内容の質問に対して 63.5%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「本校は、完全選択制ではなく、HR が中心にあるので、クラスメート同士の交流場面が多いことで、コミュニケーション・スキルの獲得に役立っている。」という聞き方をしており、63.3%の教員が肯定的な回答をしている。保護者アンケートでは「本校は、完全選択制ではなく、クラスメート同士の交流の場面が多いHRを中心に置く体制を取っていますが、親から見て子どものコミュニケーション・スキル獲得促進に役立っていると思う。」という内容の質問に対して 77.4%の保護者が肯定的な回答をしている。
- ② 「自分は、HRは別として、学校のボランティア活動、対外活動などに参加することによって、他者と友好的で礼節のあるコミュニケーションを積極的にとるスキルが伸びている。」という内容の質問に対して 61.1%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「生徒たちは、HRは別として、学校のボランティア活動、対外活動などに参加することによって、他者と友好的で礼節のあるコミュニケーションを積極的にとるスキルを伸ばしている。」という聞き方をしており、57.1%の教員が肯定的な回答をしている。本校は昨年度から今年度にかけて荻窪地域区民センター協議会と連携して「サイアンス縁日」「マルシェ&ハロウィン」「アート展」などの地域の行事にボランティアとして参加している。保護者アンケートでは「うちの子は、HRは別として、学校のボランティア活動、対外活動などに参加することによって、他者と友好的で礼節のあるコミュニケーションを積極的にとるスキルが伸びている。」という内容の質問に対して 63.3%の保護者が肯定的な回答をしている。
- ③ 「自分は、デジタル・コミュニケーションで特に大切なスキル（他者の人権に配慮するスキル、犯罪に巻き込まれないスキル、個人情報保護するスキル）を身につけ、実際場面で活かしている。」という内容の質問に対して 65.7%の生徒が肯定的な回答をしている。教員アンケートでは「生徒たちは、デジタル・コミュニケーションで特に大切なスキル（他者の人権に配慮するスキル、犯罪に巻き込まれないスキル、個人情報を保護するスキル）を身につけ、実際場面で活かしている。」という聞き方をしており、36.7%の教員が肯定的な回答をしている。生徒の肯定的回答割合と教員の肯定的回答割合に大きな乖離がある。これは昨年も同様の乖離がみられたが解消には至っていない。今後の重点的な施策が望まれる項目である。保護者アンケートでは「うちの子は、デジタル・コミュニケーションで特に大切なスキル（他者の人権に配慮するスキル、犯罪に巻き込まれないスキル、個人情報を保護するスキル）を身につけ、実際場面で活かしている。」という内容の質問に対して 83.3%の保護者が肯定的な回答をしている。

【先生個人の取り組みについて】（以下は教員アンケートのみの質問項目である。）

- ① 「私は、生徒から願いや悩みの相談をされたときには、親身になって応じている。」という内容の質問に対して 100%の教員が肯定的な回答をしている。保護者アンケートでは「本校のことについて、子どもとよく話をしている。」という内容の質問に対して 90.6%の保護者が肯定的な回答をしている。
- ② 「私は、クラス担任をもったときは、生徒の活躍や気になった点を保護者に連絡したり、家庭内の生徒の情

況や保護者からの要望を訊くなど家庭との連携に心掛けている。」という内容の質問に対して 93.78%の教員が肯定的な回答をしている。保護者アンケートでは「担任と保護者とは、いつでも気兼ねなく話ができる開かれた関係が結べている。」という内容の質問に対して 77.4%の保護者が肯定的な回答をしている。

③ 「育児又は介護のための時差通勤や育児短時間勤務等を取りやすい職場環境を作るなど、ライフ・ワーク・バランスの向上に配慮した学校経営を理解し、私も積極的に対応しようと努めている。」という内容の質問に対して 92%の教員が肯定的な回答をしている。

④ 「私は、ライフ・ワーク・バランスを考慮したタイム・マネジメントのスキルが身についている。」という内容の質問に対して 71.4%の教員が肯定的な回答をしている。

1/4程度の教員がタイム・マネジメントが出来ていないこととなる。

【保護者自由意見】

・「本人は担任の先生以外でも話しやすいと話しており、学校が安心できる環境だと感じているようです。クラスメートとのコミュニケーションで難しい時もあるようですが、友人と相談したり、「こうしてみよう」とトライしてみることができるようになりました。以前はトライすることも出来なかったもので、心の充電も出来てきているように感じます。毎日学校の出来事と話してくれるので、私自身も楽しみにしています。」

・「漢検や英検のようにニュース検定や数学検定等、単位認定可能な検定の何かを学校でもやっていただけると嬉しいです。」

・「いつもありがとうございます！」

・「親が学校からの連絡を受取る、電子的な通知をして欲しい。子供に文書を渡すでは、ほぼ通じない。」

・「押し付けや締め付けでなく、ひとりひとり大切にされているように感じます。」

・「登校し続けられているのは、先生方のご尽力のお陰です。我が家の子どもで先生への尊敬と感謝を述べているのは荻窪生だけです。」

・「髪に関して本当に中途半端だと思う。禁止ならもっときびしくするべき。中途半端にするなら自由に好きな髪色を許すべき。見た目で判断する時代ではないと思う。多様性をもっと大切にしてほしい。髪が明るいだけで学校生活へのモチベーションも上がるはず。」

【近隣からの自由意見】

・荻窪高校で学んだことや出会った先生方、友人に誇りを持って社会で活躍して欲しいと願っています。

・知人が荻窪高校卒業生で立派なパパになっています。登下校や授業の様子はわかりませんが、地域の人間として応援しています。

・私も東京経済大二部へ車で通学していたので働きながら勉強し、良い友達がいました。

以上